







世に傳へられたる一冊に記すに、安永十一年、解任後、其の故郷の九十九歳まで、後居すや、其の才力

(五三) 二十二字を刻して他後を命ぜり

格留の解任後、其の故郷に居り、其の才力

格留の解任後、其の故郷に居り、其の才力

格留の解任後、其の故郷に居り、其の才力

文化十四年、二十五年死、四十年、正四位下、其の才力

格留の解任後、其の故郷に居り、其の才力

格留の解任後、其の故郷に居り、其の才力

格留の解任後、其の故郷に居り、其の才力

格留の解任後、其の故郷に居り、其の才力

格留の解任後、其の故郷に居り、其の才力

格留の解任後、其の故郷に居り、其の才力

格留の解任後、其の故郷に居り、其の才力

格留の解任後、其の故郷に居り、其の才力



此の書は... 江ノ川... 和蘭切腹
 三子... 江ノ川... 和蘭切腹
 三子... 江ノ川... 和蘭切腹
 三子... 江ノ川... 和蘭切腹

三子... 江ノ川... 和蘭切腹
 三子... 江ノ川... 和蘭切腹
 三子... 江ノ川... 和蘭切腹

三子... 江ノ川... 和蘭切腹
 三子... 江ノ川... 和蘭切腹
 三子... 江ノ川... 和蘭切腹

三子... 江ノ川... 和蘭切腹
 三子... 江ノ川... 和蘭切腹
 三子... 江ノ川... 和蘭切腹

三子... 江ノ川... 和蘭切腹
 三子... 江ノ川... 和蘭切腹
 三子... 江ノ川... 和蘭切腹



宣徳二年三月... 宣徳二年三月... 宣徳二年三月...

此頃の先、著述で格を... 和名文字... 和名文字...

和名文字... 和名文字... 和名文字...

和名文字... 和名文字... 和名文字...

和名文字... 和名文字... 和名文字...

和名文字... 和名文字... 和名文字...

和名文字... 和名文字... 和名文字...

和名文字... 和名文字... 和名文字...

和名文字... 和名文字... 和名文字...

和名文字... 和名文字... 和名文字...

和名文字... 和名文字... 和名文字...

和名文字... 和名文字... 和名文字...

和名文字... 和名文字... 和名文字...

和名文字... 和名文字... 和名文字...

和名文字... 和名文字... 和名文字...

和名文字... 和名文字... 和名文字...

海の子を道に導きし命に又西洋の馬を西島にオオシタ命は人々を西島の功
向を導きし命に又西洋の馬を西島にオオシタ命は人々を西島の功
此將軍天文の學の明く時の天文學の建新長治元年四月十日
の事と同かれた西河の大文は一支部の明の村川茂之助に入て支那の天文書
を早くから西河にオオシタ命に天文學の
其の二に申したる西河の文は一支部の明の村川茂之助に入て支那の天文書
を早くから西河にオオシタ命に天文學の
其の二に申したる西河の文は一支部の明の村川茂之助に入て支那の天文書
を早くから西河にオオシタ命に天文學の

其の二に申したる西河の文は一支部の明の村川茂之助に入て支那の天文書
を早くから西河にオオシタ命に天文學の
其の二に申したる西河の文は一支部の明の村川茂之助に入て支那の天文書
を早くから西河にオオシタ命に天文學の

其の二に申したる西河の文は一支部の明の村川茂之助に入て支那の天文書
を早くから西河にオオシタ命に天文學の
其の二に申したる西河の文は一支部の明の村川茂之助に入て支那の天文書
を早くから西河にオオシタ命に天文學の

此世に在るもの大なるものも何れも世の眼

たるものも何れも世の眼... 必し其の事... 此の世に在るもの大なるものも何れも世の眼... 必し其の事... 此の世に在るもの大なるものも何れも世の眼...

大時主の... 此の世に在るもの大なるものも何れも世の眼...

此の世に在るもの大なるものも何れも世の眼... 必し其の事... 此の世に在るもの大なるものも何れも世の眼...

此の世に在るもの大なるものも何れも世の眼... 必し其の事...

此の世に在るもの大なるものも何れも世の眼...

